

## 部 会 報 告

# ISO/TC 195 ドイツ・ハンブルク国際会議 及び CEN/TC 151/WG 8 フランクフルト会議報告

標準部会

2018年9月17～21日の5日間、ドイツ国ハンブルク市で開催されたISO/TC 195（建設用機械及び装置 専門委員会）、SC 1（コンクリート機械及び装置 分科委員会）、SC 2（道路作業機械及び関連機器 分科委員会）、WG 5（道路建設及び維持用機器—用語及び商業仕様 作業グループ）、WG 8（骨材処理 作業グループ）及びWG 9（自走式道路建設用機械及び装置の安全要求事項 作業グループ）の国際会議に日本代表として出席したので、その内容を報告する。また、その前週9月12～13日、及び翌週9月25～26日の4日間、同フランクフルト市で開催されたCEN/TC 151/WG 8（建設機械及び建築資材用機械—安全 専門委員会/コンクリート準備及びハンドリング用機器 作業グループ）傘下のSWG（サブ作業グループ）会議にもオブザーバとして出席したので、あわせて報告する。

### 1. はじめに

ISO/TC 195 国際会議は例年9～11月に開催され、今年にはVDMA（ドイツ機械技術工業協会）の招致に

より、ハンブルク市にあるPark Hyatt Hamburgホテルの会議室において表—1に示す日程で行われた。

今回、日本からは表—2に示す4名が使節団として参加した。

各国からのTC 195会議出席者は、中国（10）（幹事国）、ドイツ（12）（ツイニング幹事国）、フランス（5）、米国（4）、韓国（2）、スイス（1）及び日本（4）の各TC 195関係者であり、7ヶ国 延べ38名であった。

ISO/TC 195国際会議の前週には、CEN/TC 151/WG 8コンビナー国ドイツによるSWG 3会議が、ヘッセン州フランクフルト・アム・マインにあるVDMAビルの会議室において表—3に示す日程で開催され、日本から川上氏、事務局の2名がオブザーバ参加した。

各国からのSWG 3会議出席者は、ドイツ（7）（コンビナー国）、イタリア（1）、中国（2）及び日本（2）の関係者であり、4ヶ国 計12名であった。

また、ISO/TC 195国際会議の翌週にも、CEN/TC 151/WG 8コンビナー国ドイツによるSWG 1会議が、同じくVDMA近くにある別館FZHG（ヘッセン歯科教育アカデミー(株)ビル）の会議室において表—4に

表—1 ISO/TC 195 各会議日程

日 時	会 議 名
9月17日（月）	午前：WG 5（道路建設及び維持用機器—用語及び商業仕様）会議
	午後：WG 8（骨材処理）会議・WG 9/AHG 2（特設グループ）会議*
9月18日（火）	WG 9（自走式道路建設用機械及び装置の安全要求事項）会議
9月19日（水）	SC 1（コンクリート機械及び装置：日本が議長及び幹事国）総会
9月20日（木）	SC 2（道路作業機械及び関連機器）総会
9月21日（金）	TC 195（建設用機械及び装置）総会

\* WG 8会議・WG 9/AHG 2会議は、別々の会議室で同時開催

表—2 日本からの出席者

氏 名	所 属	役 割
川上 晃一	日工(株)	ISO/TC 195/SC 1 議長
清水 弘之	KYB(株)	ISO/TC 195/SC 1/WG 4 コンビナー
山口 達也	鹿島道路(株)	ISO/TC 195/SC 2, WG 5, WG 8, WG 9 専門家 ISO/TC 195 国内委員会 委員長
小倉 公彦	JCMA 標準部	ISO/TC 195 事務局, ISO/TC 195/SC 1 国際幹事

表一3 CEN/TC 151/WG 8/SWG 3 会議日程

日時	会議名
9月12日(水)	CEN/TC 151/WG 8/SWG 3 (EN 12001 “コンクリート及びモルタル運搬、吹付け及び打設機械—安全要求”見直し) 会議
9月13日(木)	

表一4 CEN/TC 151/WG 8/SWG 1 会議日程

日時	会議名
9月25日(火)	CEN/TC 151/WG 8/SWG 1 (EN 12151 “コンクリート及びモルタル準備用機械及びプラント—安全要求”見直し) 会議
9月26日(水)	

示す日程で開催され、日本から清水氏、事務局の2名がオブザーバ参加した。

各国からのSWG 1会議出席者は、ドイツ(7)(コンビナー国)、フランス(2)、米国(1)、中国(1)及び日本(2)の関係者であり、5ヶ国計13名であった。

なお、今年は経済産業省施策「平成30年度国際幹事・議長等国際会議派遣事業」による支援(3名分)に加えて、(公財)JKAによる「ISO/IEC国際会議への専門家派遣に係わる補助事業」(山口氏)も利用しての出張となった。

### 【会議出席の目的】

ISO/TC 195/SC 1 議長国としてSC 1総会を運営し、各国提案の進捗を図るとともに、SC 1/WG 4 コンビナー国として日本が提案準備中の「トラックミキサー Part 2: 安全要求」の検討を推進する。また、中国が提案準備中の「コンクリート及びモルタル準備用プラント—Part 2: 安全要求」など、ウィーン協定下の安全関連プロジェクト推進に不可欠なISO/CEN協力体制を構築する為、CEN/TC 151/WG 8傘下のSWG 1, SWG 3会議にもオブザーバ参加し、CEN側メンバとの接触及び人脈作りを図る。

専門家の代表として、今回新設のSC 2総会に出席する。また、WG 5, WG 8, WG 9, 同AHG 2会議にも出席し、日本の意見を具申する。

ISO/TC 195総会に出席し、SC 1決議事項の報告を行うと同時に、Pメンバ国の使節団として日本の意見を具申する。また、今後、TC 195傘下に新設予定のSC 3に関しても情報収集を行う。

次回ISO/TC 195国際会議を2019年11月に神戸で開催する日本提案について、各国の了承を得る。

## 2. 会議概要

### ISO/TC 195 国際会議

#### 1) ISO/TC 195/WG 5 会議 (9月17日午前)

出席者: ドイツ(4)、米国(5)、中国(4)、フランス(2)、韓国(2)、日本(4) / コンビナー: ドイツ Piller氏 計21名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され、次の項目につき議論された。

#### 1 ISO/NP 15878 アスファルトペーパー/フィニッシャー用語及び商業仕様

「見直し」新業務提案(NP)の投票結果及びコメントについて議論された。NPとして承認される為には、あと2ヶ国の積極参加が必要(後述するTC 195総会において、フランス、韓国が参加を表明)。承認され



写真一1 Park Hyatt Hamburg 入口 (写真提供: 川上氏)



写真一2 VDMA ビル外観

活動開始した際には、CDを省略してDIS段階へ進めるよう、TC 195での決議を要請する（後述するTC 195総会で承認された）。

## 2 ISO/NP 15643 瀝青結合材散布／吹付機一用語及び一般仕様

「見直し」の新業務提案（NP）投票が2018年5月に締め切られた。コメントをレビューし、CDを準備する。CIBの結果承認され、Pメンバ5ヶ国が参加。DIS登録期限は2019年6月。WG 5が作成した最終案文で使用される用語“spread”（液体の散布）及び“spray”（固体の撒布、吹付け）の一貫性につき、フランスがチェックする。CDを省略してDIS段階へ進めるよう、TC 195での決議を要請する（後述するTC 195総会で承認された）。

## 3 ISO 15645 路面切削機械一用語及び商業仕様

状況報告—「軽微な改正」のFDIS投票が8月に締め切れ、9月に発行された。

## 4 ISO 15688 ソイルスタビライザ一用語及び商業仕様

定期的見直し—編集上のコメント付きで承認されたが、TC決議が必要。「確認」とするよう、TC 195での決議を要請する（後述するTC 195総会で承認された）。

## 5 ISO 22242 基本タイプ一識別及び記述

定期的見直し—軽微なコメント付きで承認されたが、SC 2の適用範囲を含む為、TC 195での議論が必要（後述するSC 2総会で移管が要求された）。また、「確認」とするようTC 195での決議を要請する（後述するTC 195総会で承認された）。然る後、見直し作業の開始が可能。



写真—3 WG 5会議風景

2) ISO/TC 195/WG 9/AHG 2 会議（9月17日午後）  
出席者：ドイツ（4）、日本（2）／コンビナー：ド

イツ Hey 氏 計6名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され、次の項目につき議論された。

## 1 AHG 2 自走式道路建設機械の視界性

ドイツ WG 9 幹事 Kampmeier 氏より説明

ISO 20500 シリーズのプロジェクト段階について：  
20.00 ISO 20500 が登録された。

次の目標期日：

30.00 CD 投票一回 WG 9 会議の後に開始予定。

40.00 DIS 投票—2019年12月頃。

道路建設機械の視界性要求

前回 AHG 会議での宿題事項レビュー（2018年6月にミュンヘン BG Bau で開催）

## 2 ISO 20500-2

最新式の切削機械における作業（立ち乗り運転員）の様に、個々の視界マスキングの組合せ（オーバーラップ）が必要な2ヶ所の運転位置を有する場合、両方の位置における視界性の評価を同時に行うことを製造業者に許可するよう、文面を変更した。

## 3 合意事項のまとめ／決定、目標時期及びとるべき行動

AHG 2のメンバは、ISO 20500-1 Annex Hで予定される“立ち乗り運転員”の図面を提供する。[ドイツ専門家 Drees 氏が自主的に主導]また、今回会合での議論に従い、全てのサブパートの5.1.2項にある機械の図面を見直す。

AHG 2のリーダーは、受け取った図面等を提案ドラフト“自走式道路建設機械の視界性—AHG 2 会議・9月17日ハンブルク”に反映する。また、ISO 20500 シリーズのCD投票用案文を～2018年10月末迄に準備する為、この提案ドラフトをWG 9 幹事へ送付する。

次回会合予定：なし



写真—4 WG 9/AHG 2 会議風景

### 3) ISO/TC 195/WG 8 会議 (9月17日午後)

出席者：米国 (4), 中国 (4), 韓国 (3), フランス (2), 英国 (2), フィンランド (1), 日本 (2) / コンビナー：米国 Young 氏 計 18 名

米国コンビナーの司会で議事が進行され、次の項目につき議論された。

#### 1 ISO/DIS 21873-2 自走式破碎機—第2部：安全要求

2017年9月に締め切られた DIS 投票の結果、11ヶ国賛成、1ヶ国反対で承認された。提出されたコメントをレビューし、決議した。

– DIS 投票における NB (国家標準化機関) コメントを決議に含めることに成功した。

– 「CEN の関連文書が熟成するまで待つべき」との幾つかのコメントを受け、ISO 21873-2 の第2版発行後、見直しを提案することに合意した。

– ISO カレンダーでは、～2019年1月に同文書を発行すること、となっている。

WG 8 は DIS 投票時のコメントを考慮した FDIS 案文を準備し、目標時期～2018年10月迄に TC 195 へ提出する。

#### 2 自走式破碎機—生産能力の測定及び決定方法 (韓国提案)

予てより韓国 KATS が提案していたが、CIB (委員会内投票：～8月初め締切) の結果、賛成多数で承認された。

これを受け、自走式破碎機を生産能力の決定及び測定方法を網羅する ISO 21873-3 を開発する。

提案者は、CIB 投票中に NB より提出されたコメントを考慮すること。

WG 8 は、以下の事項を TC 195 へ提言する：

専門家は既に配置されており、開発の準備が出来ている

より洗練された作業案文を開発する為、PWI (予備作業項目) として登録する

上記の標題で、文書番号 ISO 21873-3 を付与する

CD, DIS, IS 発行の目標時期は、WG 8 が～2019年11月迄に設定する

#### 3 次段階の決定

上記の提言で網羅している通り。



写真—5 WG 8 会議風景

### 4) ISO/TC 195/WG 9 会議 (9月18日)

出席者：ドイツ (6), 中国 (6), 米国 (5), フランス (4), 韓国 (3), スウェーデン (1), 日本 (4) / コンビナー：ドイツ Hey 氏 計 29 名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され、次の項目につき議論された。

#### 1 自走式道路建設用機械の安全規格 (EN/ISO 20500-1 ~ -7)

Part 1：共通的要求事項

Part 2：路面切削用機械の要求事項

Part 3：道路建設・リサイクル機械の要求事項

Part 4：締固め機械の要求事項

Part 5：舗装機械の要求事項

Part 6：自走式フィーダの要求事項

Part 7：スリップフォームペーバ及び養生機の要求事項

タイムスケジュール

ドイツ幹事 Kampmeier 氏が Part 1～5 の状況を紹介した。自動キャンセルを回避する為の DIS 登録期限は～2019年12月となっている。

#### 2 特設グループ (Ad Hoc Group) の報告

##### – AHG 1 瀝青ガス/エアゾル

ペーバの排出ガス低減装置に関する新たな附属書について、フランス Patrascu 氏が報告した。EN/ISO 20500-5 の附属書として、採用される準備が出来ている。今後の活動は計画されていない。

##### – AHG 2 自走式道路建設機械の視界性

新たな視界性要求について、ドイツ Hey 氏が紹介した。ISO 5006 の試験方法に、自走式道路建設機械の要求事項を追加したものを基本とする。EN/ISO 20500 各パートの附属書として現行案文を加え、計画中の CD 段階でコメントを募る。

##### – AHG 3 専用性能レベルの附属書

報告事項なし

#### － AHG 4 コンベヤ

EN 620 コンベヤ—安全要求の状況について、フランス Picart 氏が紹介した。CEN 意見照会の段階にある（～2018年10月締切）。EN/ISO 20500 シリーズにおけるコンベヤの要求事項と整合させる為、この文書を用いる可能性がある。

#### － AHG 5 遠隔操縦

土工機械に関する遠隔操縦の要求事項（ISO 20474/EN 474）と整合させる目標について、ドイツ Hey 氏が報告した。各案文の作成段階が異なる為、現時点で目標は達成できていない。従って、今後 CD 段階で議論されるまで、遠隔操縦の要求事項は EN/ISO 20500 のままである。更なる議論の為、CD 段階でコメントを募る。

#### － AHG 6 ガード

2018年6月にパリで行われた前回会議の結果について、ドイツ Piller 氏が紹介した。ガードの要求事項は、EN/ISO 20500-1, -2, -3, -5, -7 の為には案文を作成している。これらの案文は、次期 EN/ISO 20500 案文で各パートの附属書として採用される。

#### － AHG 7 スクリードの振動

フランス Patrascu 氏が、今回不参加の同僚 Le Brech 氏に代わり報告した。2018年6月にパリで会議が開催された。Part 1～5 に必要な要求事項が準備されている。規格本文に採用され、CD 段階でコメントを募る。

#### － AHG 8 第6部—フィーダ

ドイツ Oettinger 氏が報告した。第6部—フィーダの案文を作成しており、CD 段階でコメントを募る。

#### － AHG 9 路面切削機械の排出物低減装置

2018年に2回、パリで開催された会議の結果について、Patrascu 氏が報告した。路面切削機械の ERD（排出物低減装置）に関する試験方法の案文を専門家が作成した。この案文は EN/ISO 20500-2 に採用される。

### 3 合意事項のまとめ／とるべき行動

各特設グループの結果を EN/ISO 20500 各パートに採用することについて、全ての WG 9 メンバが合意した。凍結された各パートの案文についてコメントが必要であることから、可能な限り速やかに CD 投票（投票期間：12週）を開始することを決定した。2019年初頭～投票開始が理想的である。

WG 9 コンビナー及び幹事は CD 案文を準備し、TC 195 幹事を通じて P メンバへ回付する。9月21日の TC 195 総会で所要の事項を決定する（後述する TC 195 総会で決議された）。

### 4 次回会議予定

2019年5月20～22日、フランス又は米国において開催（追って確認）



写真—6 WG 9 会議風景（AHG 1 プレゼンテーション）

#### 5) ISO/TC 195/SC 1 総会（9月19日）

出席者：日本（4）、中国（7）、ドイツ（2）、米国（4）、フランス（4）、韓国（2）／議長：川上晃一、幹事：小倉公彦、SC 1/WG 4 コンビナー：清水弘之 計 23 名

日本議長の司会で議事が進行され、次の項目につき決議が採択された。

##### 決議 1：謝辞

ドイツ国ハンブルクでの SC 1 総会開催を準備し運営した DIN 事務局に謝意を表明する。

決議 2：決議起草委員会として、フランス・米国・ドイツ・韓国・中国・日本より 6 名が任命された。

決議 3：SC 1 の 2017 年 11 月から 2018 年 9 月までの間の活動について、幹事による報告（Doc N 316）が承認された。

決議 4：FDIS 19711-1 トラックミキサ：第 1 部—用語及び商業仕様—日本提案 FDIS 投票結果の報告及び討議

WG 4 コンビナー／幹事による、前回第 2 次 DIS 投票以降の経緯：WebEx 会議開催状況及び FDIS 投票結果の報告（Doc N 317）を審議し、ISO 19711-1 が発行されたことを確認した。

決議 5：ISO 13105-2 コンクリート表面こて仕上げ機械—第 2 部：安全要求事項及び検証—改正に関する更なる進捗の報告

ISO 13105-2 改正の進捗に関する WG 2 コンビナーのプレゼンテーション（Doc N 318）が受理された。今後の更なる研究を期待する。

決議 6：PWI 19711-2 トラックミキサ：第 2 部—安

全要求事項に関する CEN/TC 151/WG 8 との協業開始に関する提案

WG 4 コンビナー / 幹事による報告 (Doc N 319) を審議し, CEN/TC 151/WG 8 との連携に当って橋渡し役を務める VDMA に感謝する。

SC 1 は, 以下に合意する。

ウィーン協定の下で, EN 12609 の正式版 (2019 年 4 月発行見込) を基に ISO 19711-2 を開発する価値を認める。

開始に当っては, 適用範囲からフロントディスクチャージ式ミキサを除外しない。もし, 当該機械を統合して扱うことに問題が生じた場合は, 別パートに分けるなど, 他の方法をとってもよい。

SC 1 幹事は, NWIP (新業務項目提案) の投票を (提案文書の概要及び EN 12609 を参照している旨を記して) 開始する。同時に, ウィーン協定下で開発する為の投票を CEN でも行う。

NWIP 投票開始時期: EN 12609 の DAV (公示日) から 2 ヶ月以内を目標とする。

**決議 7:** PWI 19720-2 コンクリート及びモルタル準備用プラント: 第 2 部—安全要求事項に関する CEN/TC 151/WG 8 との協業開始に関する提案

WG 5 コンビナーによる報告 (Doc N 324) を審議し, CEN/TC 151/WG 8 との連携に当って橋渡し役を務める VDMA に感謝する。

WG 5 コンビナーは, 当該プラントの安全要求に関する世界各国の状況を更に調査する為, アンケート記入フォームを準備する。SC 1 幹事は同フォームを配布し, 各国は直ちに記入の上, 2019 年 6 月末迄に回収を完了する。

結果について, 次回 SC 1 総会で説明及び議論する。

**決議 8:** 定期的見直し結果に基づく AWI 報告—ISO 21573-2 コンクリートポンプ—第 2 部: 技術パラメータの試験方法

WG 6 コンビナーの報告 (Doc N 320, N 321) を審議した。

WG 6 コンビナーは意見照会時及び席上で提出されたコメントを考慮し, 第 2 次 WD として再配布する。

**決議 9:** 定期的見直し結果に基づく AWI 報告—ISO 18650-1 コンクリートミキサ—第 1 部: 用語及び一般仕様

ISO 18650-1 見直しに関する WG 7 コンビナーの報告を受理するとともに, 決議 13/2017 に従い WD 18650-1 案文を準備するよう要求する。

ISO 18650-2 見直しに関し, 米国が新業務項目提案を意図していることに留意する。

**決議 10:** 相談の結果—“コンクリート機械—施工現場情報交換”

新業務項目提案に関する中国コンビナー候補の報告 Doc N 326 (Doc N 312, N 313 の調査結果に基づく) について議論し, 以下を決議した。

- 中国コンビナー候補を ISO/TC 127/WSC 3/G 5 とのリエゾンオフィサーに任命する
- 中国が“コンクリート機械—施工現場情報交換”に関する新業務項目提案を行い, 受け入れられた場合, SC 1 傘下に新たな作業グループを設立する
- 中国コンビナー候補は, 次回 SC 1 総会で進捗状況を報告する

**決議 11:** ISO/TPM による ISO committee Updates ISO 業務指針の変更点に関する説明 (Doc N 323) を紹介した。

**決議 12:** 次回会議の開催

次回 SC 1 総会は, 2019 年に神戸で開催される ISO/TC 195 総会に併せて計画する (Doc N 325 参照)。

昨年のおースティン SC 1 総会に続き, コンクリート機械の「施工現場データ交換」に関する国際標準化が中国から再度提案され, 新業務項目提案とすることが承認された (**決議 10**)。既に土工機械で標準化されている ISO 15143 シリーズに着想を得た提案であるが, ハンブルク SC 1 総会以前に ISO/TC 127/SC 3/WG 5 へ申し入れた JWG 設立は却下された。今回, 改めて中国コンビナーを同 WG 5 とのリエゾンオフィサーとして任命したので, NP 投票が承認された場合, SC 1 傘下 WG で推進すると同時に, TC 127 からの情報入手を図ることとなる。また, 2019 年の TC 195 総会を神戸で開催する日本提案が正式に了承された (**決議 12**)。



写真—7 SC 1 会議風景

## 6) ISO/TC 195/SC 2 総会 (9月20日)

出席者：ドイツ (9), 中国 (7), 米国 (4), フランス (6), スイス (1), 日本 (4) / 議長：ドイツ Diedrich 氏, 幹事：ドイツ Schwark 氏 計 31 名

ドイツ議長の司会で議事が進行され, 次の項目につき決議が採択された。

**決議 1：言語**

英語で決議を作成する。

**決議 2：議長の紹介**

SC 2 議長として任命された Frank Diedrich 氏を承認すると共に, SC 2 を統率する自発的な意思に感謝する。

**決議 3：表題及び適用範囲の採択**

以下の表題を承認するよう TC 195 に要求する：

“道路作業機械及び関連機器”

以下の適用範囲を承認するよう TC 195 に要求する：道路作業機械, 機器及び製品分野の標準化で, 以下を含む

用途；環境；名称；分類；インターフェース及びカップリング（機械, 電気, 空圧, 油圧）；格付け；性能要求；試験方法；安全及び人間工学的要求

以下を除く

芝刈り及び造園用機器 (ISO/TC 23/SC 13)

スポーツグラウンド整備用機械

収穫及び保全用機械 (ISO/TC 23/SC 7)

農業, 園芸用機械 (ISO/TC 23/SC 17)

林業用機械 (ISO/TC 23/SC 15)

土工機械 (ISO/TC 127)

道路建設及び維持用機械 (ISO/TC 195, ただし ISO/TC 195/SC 2 所管以外)

ゲレンデ整備用機器

鉄道用途のみに設計された機械又は構成部品 (ISO/TC 269)

工業用清掃／洗浄機器 (IEC/TC 61)

塵芥収集車 (ISO/TC 297)

空港専用機械及び機器 (ISO/TC 20)

**決議 4：ISO 22242 の見直し**

ISO 22242 より以下のカテゴリを除外するよう TC 195 に要求する。

2.7 路面清掃機械

2.8 除草機械及び機器

2.9 冬期道路維持用機械及び機器

**決議 5：新業務項目提案の採択**

以下の新業務項目候補への関心に留意する。

1. 路面清掃車—用語及び商業仕様 (米国提案)

2. 路面清掃車—粒子状物質収集効率—試験及び評

価 (ドイツ提案)

3. 路面清掃車—性能要求及び試験方法 (ドイツ提案)

4. 冬期維持用機器—撒布機 (グリッティングマシン) —一般要求及び撒布機の定義 (ドイツ提案)

5. 冬期維持用機器—撒布機 (グリッティングマシン) —給送の要求事項及び試験 (ドイツ提案)

6. 冬期維持用機器—スノーブラウ—第 2 部：試験の判定基準及びそれらの要求事項 (ドイツ提案)  
各提案国は, 上記プロジェクトの第 1 次作業案文, 及び概要を含む新業務提案項目の様式 4 (NWIP フォーム) を準備する。(新業務項目提案の) CIB・3 ヶ月投票を行うに当り, 他のメンバ国も上記以外の提案があれば提出する。CIB の結果, 優先順位及び新たな作業グループの割り当てについて第 2 回総会で議論する。

**決議 6：戦略的事業計画の開発手順**

幹事は, SBP (戦略的事業計画) を回付する。第 1 回総会で提出された意見を基に, 修正案を策定する。メンバ国は, 2019 年 3 月末迄にコメントを提出する。コメントを基に, 第 2 回総会で議論する。

**決議 7：ISO/TC 23/SC 7 とのリエゾンオフィサーの任命**

ISO/TC 23/SC 7 とのリエゾンを形成し, SC 2 の米国 Moss 氏を ISO/TC 23/SC 7 “収穫及び保全用機械” リエゾンオフィサーに任命する。

**決議 8：ISO/TC 23/SC 13 とのリエゾンオフィサーの任命**

ISO/TC 23/SC 13 “動力式芝刈り及び造園機器” とのリエゾンを形成し, 第 2 回総会でリエゾンオフィサーを決定する。

**決議 9：ISO/TC 127 とのリエゾンオフィサーの任命**  
ISO/TC 127 とのリエゾンを形成し, SC 2 の米国 Crowell 氏を ISO/TC 127 “土工機械” リエゾンオフィサーに任命する。

**決議 10：ISO/TC 297 とのリエゾンオフィサーの任命**  
ISO/TC 297 とのリエゾンを形成し, SC 2 のドイツ Diedrich 氏を ISO/TC 297 “廃棄物マネジメント” リエゾンオフィサーに任命する。

**決議 11：次回会議**

次回 SC 2 総会を 2019 年 5 月 16～17 日にドイツ・ベルリンで開催する。

**決議 12：謝辞**

第 1 回 SC 2 総会を運営した DIN 事務局に謝意を表明する。



写真一 8 SC 2 会議風景

### 7) ISO/TC 195 総会 (9月21日)

出席者：中国 (10), ドイツ (12), 米国 (4), フランス (5), 韓国 (2), スイス (1), 日本 (4) / 議長代行 兼 幹事：中国 Liu 氏 計 38 名

中国幹事 (議長代行) の司会で議事が進行され、次の項目につき決議が採択された。

#### 決議 1：決議起草委員会

ドイツ, 米国, 日本, フランス及び中国より 5 名が任命された。

#### 決議 2：幹事の報告

ISO/TC 195 の活動に関する幹事の報告に感謝する。

#### 決議 3：SC 1 の報告

SC 1 議長の報告に感謝する。

#### 決議 4：SC 2 の報告

SC 2 議長の報告に感謝する。SC 2 の表題及び適用範囲を確認した。

#### 決議 5：TC 195 傘下の新たなサブコミッティ設置

フランス AFNOR が新しい SC 3 を設立し主導する意思を表明し、下記の 5ヶ国が積極参加の意図を表明した：

中国 (SAC), フランス (AFNOR), ドイツ (DIN), 日本 (JISC), 米国 (ANSI)

ISO/IEC 業務指針—第 1 部の 1.8 項にある議長の任命及び権限に関するルールを考慮し、Doc N 1286 に定める適用範囲及び責任範囲を有する SC 3 “穿孔及び基礎工事用機械” の設置を決定する。AFNOR の責任下に、この新たな SC を設置するよう ISO/TMB に要請する。最初の 6 年間の議長は Daniel Perpezat 氏、幹事は Aline Vecchia 女史が務める。

#### 決議 6：WG 2 の報告

米国コンビナーの口頭報告に感謝する。WG 2 は 2005 年以降活動しておらず、また、発行から 20 年以上経過した ISO 11375 を更新又は廃止する必要がある、とのコメントを了承する。

#### 決議 7：WG 5 の報告

ドイツコンビナーの報告に感謝する。ISO 15878 見直しへの積極参加に同意する P メンバが必要数に達していないことに留意する。米国、日本及びドイツのみが参加に同意していた。会議の外で、フランスと韓国が専門家の任命に同意したので、プロジェクトを進めるのに必要な全ての判定基準を満足した。ISO/CS に作業項目の始動を要請する。

ISO/NP 15878 の CD 段階を省略し、DIS 段階へ進む。

ISO/NP 15643 の CD 段階を省略し、DIS 段階へ進む。(日本は反対だが、賛成多数)

定期的見直しの結果、ISO 15688, ISO 22242 は確認とする。

道路作業機械を構成する全ての機種を ISO 22242 から除外する SC 2 の要求を受け入れる。

次回総会で議論する為、可能な見直しに関する更なるインプットを WG 5 及び SC 2 に要求する。

#### 決議 8：WG 6 の報告

ドイツ幹事の報告に感謝する。

#### 決議 9：WG 8 の報告

米国幹事の報告に感謝する。

WG 8 は ISO 21873-2 の FDIS 案文を提出する。

予備プロジェクトとして ISO 21873-3 案文を登録する。

#### 決議 10：WG 9 の報告

ドイツコンビナーの口頭報告に感謝する。

2019 年初めに CD 投票へ進める為、ISO 20500-1 ~ 7 の本文を提出するよう WG 9 に要求する。このウィーン協定プロジェクトの評価に当って、CEN コンサルタント (整合規格コンサルタント) への支援要請を WG 9 に推奨する。次回 WG 9 会議に CEN コンサルタントが参加できるよう、できれば CD 投票期間中に接触する。

#### 決議 11：適用範囲及び事業計画

適用範囲及び事業計画を確認した。ISO/TC 195 の表題を見直し、TC 127 との差異を明確にするようにとの ISO/TMB の要求に留意する。全ての P メンバが表題を検討し、より良い文言を提供できるよう、CIB を開始するとともに、次回 TC 195 総会で議論する。

#### 決議 12：WG 7 のプレゼンテーション

米国幹事のプレゼンテーションに感謝する。

ISO 19433 及び ISO 19452 の CIB 結果を検討し、いずれも 7ヶ国が確認、2ヶ国が見直しを要求した。席上、フランス、ドイツ、日本、韓国、米国が見直しに同意 (中国は棄権) したことに留意し、米国の提案に従い、WG 7 の活動再開を決議する (コンビナーは米国)。ISO 19433, ISO 19452 の見直しプロセスを開



写真一 9 TC 195 会議風景

始する（適用範囲は変更しない）。TC 195 幹事は必要な措置を講じる。

**決議 13：**2019 年総会の開催地に関する日本提案プレゼンテーション

日本使節団のプレゼンテーション及び2019年のTC 195 総会を神戸で開催する提案に感謝する。2019年11月18～22日の週に開催する日程案に同意する。

**決議 14：**TC 82 のリエゾンレポート

ドイツ TC 82 幹事の報告に感謝する。

**決議 15：**TC 127 のリエゾンレポート

米国 TC 127 議長の報告に感謝する。

**決議 16：**CEN/TC 151 のリエゾンレポート

ドイツ幹事の報告に感謝する。

**決議 17：**ISO/CS の報告

TPM の報告に感謝する。（今回不参加）

**決議 18：**道路建設機械に関する新たなサブコミッテの提案

ドイツ Piller 氏のプレゼンテーション、ドイツ使節団が提唱する道路建設機械の新たなサブコミッテに

関する発案の概要に感謝する。

CIB を2019年春に開始する為、ドイツ使節団は更なる情報と提案の詳細を提供する。

**決議 19：**謝辞

今週のドイツ・ハンブルク市での会議を組織し、運営したVDMA、BG BAU 及び関係各位に謝意を表明する。

2019年のTC 195 総会を神戸で開催する日本提案が正式に了承された（**決議 13**）。SC 3 の設立が承認された（**決議 5**）のに続き、道路作業機械として独立したSC 2 に対抗するように、WG 5 に残された道路建設機械を新たなサブコミッテ SC 4 に昇格させることが提案された（**決議 18**）。

2016年にISO/TC 297「廃棄物の収集・輸送及び道路管理並びに関連装置」より要求のあったTC 195 業務範囲の一部移管に関し、同年のTC 195 パリ国際会議で論議が紛糾した。TC 127, TC 82 等、複数TC間で生じている業務範囲の重複を調整するISO/TMB タスクフォース9 (TF 9) が活動し、2017年にTC 195, TC 297 で同時に実施された並行CIBの結果に関するTF 9 報告の後、2018年2月のISO/TMB 会合（韓国ソウルで開催）において「Road Operation Machinery のTC 297 への移管は認めず、TC 195 の傘下にSC 2（幹事国：ドイツ）を新たに設け、ROM を所管する」ことが承認された。

これを受けてSC 2 が設置され、日本もPメンバとして参加する為、2018年6月にJCMA がSC 2 国内審議団体として登録された。



写真一 10 ISO/TC 195 出席者

### ※1 ISO 関連用語の解説

ツィニング：2ヶ国による（幹事国）協同運営，コンビナー：（作業グループ）主査，プロジェクトリーダー：提案の推進責任者，セクレタリ：国際幹事

### ※2 ISO 規格用語の解説

TC：専門委員会，SC：分科委員会，WG：作業グループ，AHG：特設グループ，PWI：予備作業項目，AWI：活動中の作業項目，NP：新業務，WD：作業ドラフト，CD：委員会ドラフト，DIS：国際規格ドラフト，FDIS：最終国際規格ドラフト，CIB：委員会内投票

### ※3 組織略語の解説

AEM：米国機器工業会，AFNOR：フランス規格協会，BG BAU：ドイツ建設業界専門職協会（Berufsgenossenschaft der Bauwirtschaft），CEN：欧州標準化委員会，DIN：ドイツ規格協会，VDMA：ドイツ機械技術工業協会（Verband Deutscher Maschinen und Anlagenbau）

#### CEN/TC 151 国際会議（オブザーバ参加）

#### 8) CEN/TC 151/WG 8/SWG 3 会議（9月12～13日）

出席者：ドイツ（7），イタリア（1），中国（2），日本（2）／コンビナー：ドイツ Hoffman 氏 計12名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され，次の項目につき議論された。

- EN 12001 “コンクリート及びモルタル運搬，吹付け及び打設機械—安全要求” 見直し
- 前回会議の議事録確認
- Schwing 社提案に関する議論—“cleaning mode” の提案
- Liebherr 社コメントに関する議論
- 新たなインプットに関する議論
- 図， 標題及び Key の確認
- 次の段階， 次回会合—2019年3月中旬を予定



写真—11 CEN/TC 151/WG 8/SWG 3 会議風景

#### 9) CEN/TC 151/WG 8/SWG 1 会議（9月25～26日）

出席者：ドイツ（7），米国（1），フランス（2），中国（1），日本（2）／コンビナー：ドイツ Rudner 氏 計13名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され，次の項目につき議論された。

- 前回会議の議事録確認
- 未解決案件の議論
- 受領したインプットの議論
- 次の段階， 次回会合—2019年2月にフランクフルトで開催

CEN 会議の後，ドイツ WG 8/SWG 1 コンビナーと面談し，中国 SC 1/WG 5 コンビナーが推進する ISO/CEN ウィーン協定下での ISO/PWI 19720-2 開発に協力するよう，連携を依頼した。



写真—12 CEN/TC 151/WG 8/SWG 1 会議風景

### 3 所感

この国際会議は今回で27回目になる。2017年より SC 1 国際議長に就任した川上氏の万全な準備が功を奏し，滞りなく SC 1 総会を運営することができた。

SC 1/WG 4 コンビナー清水氏による日本提案 ISO 19711-1 トラックミキサ—Part 1：用語及び商業仕様が無事に発行されたことを受け，PWI 19711-2 同一 Part 2：安全要求の準備を開始した。中国提案 PWI 19720-2 コンクリート及びモルタル準備用プラント—Part 2：安全要求の SC 1/WG 5 中国コンビナーと歩調を揃えて，ISO/TC 195/SC 1 側のリエゾンオフィサーとして CEN/TC 151/WG 8 傘下 SWG 会議への初参加が VDMA 事務局の協力により実現した。

これまで CEN/TC 151/WG 8 側の専門家が SC 1 総会へ参加することはなく，ウィーン協定下で ISO を策定する安全関連プロジェクトの停滞が懸案事項であったが，今回 EN 見直し作業の現場に立ち会い，

CEN での進捗状況を直接確認することができた。

これを手掛りに各国コンクリート機械専門家の相互理解を深め、ISO プロジェクト推進に CEN 側の支持を得られるよう、協業関係の構築に努める。prEN 12609 (日本提案 PWI 19711-2 に対応) の改訂版発行、prEN 12151 (中国提案 PWI 19720-2 に対応) 及び prEN 12001 (コンクリート打設ブーム付きポンプ車一過去に ISO 化を試みたが廃案、現在休止) の見直し作業に関する情報収集の為、今後も CEN/TC 151/WG 8 との連携を図る。VDMA 事務局を通じて、或いは今回面識を得た CEN 側のコンビナーに直接、次回 ISO/TC 195/SC 1 総会への積極参加も呼びかける所存である。

SC 2 議長国、WG 5・WG 9 コンビナー国を務めるドイツは、TC 195 総会以外にも WG/AHG 会議を頻繁に開催するなど活動的である。TC 195 国内委員長(兼 SC 2, WG 5, WG 8, WG 9 専門家)である山口氏の参加により、各 WG の作業案件について事前にインプットしたコメントを的確に説明しただけでなく、SC 2 の戦略的事業計画に対しても日本の立場に基づく意見を具申することができた。

日本使節団の熱心な誘致により、2019 年の TC 195 総会を神戸で開催する日本提案が正式に了承された(決議 13) ので、国内関係者で協力し、11 月開催に向けて具体的な準備を進める所存である。

今後も、各国意見の調整を図ると共に SC 1 の活動を促進し、TC 195 及び他 SC, WG へも可能な限り積極的に参画していくことで、建設用機械及び装置産業における日本の国際競争力維持・発展に貢献できると考える。ただし、TC 297 との齟齬が解消された結果、予てよりフランス AFNOR が提案していた SC 3 “穿孔及び基礎工事用機械” の設置が承認され、また、SC 2 “道路作業機械及び関連機器” 設置の波及効果として、今回ドイツが新たに SC 4 (仮) “道路建設機械”(WG 5 から格上げ) を提案するなど、2013 年にドイツが提案した「TC 195 再構築プラン」が実現に向けて動き出した。今後も傘下 SC の新設が続くと考えられるので、国内体制の再検討も含め、審議団体引受け・新 SC への参画等に関し、引き続き JISC の理解・支援が得られるよう要請していく。

また、P メンバ国として日本意見の調整・発信に努めるとともに、TC 195/TC 127/TC 82/TC 297 による適用範囲の調整結果が正しく反映されるよう、引き続き国内関係団体との連携を図る。

#### 4 その他

今回 ISO/TC 195 国際会議の開催地となったハンブ

ルク市はドイツ北部に位置し、ベルリン市に次ぐドイツ第 2 位の大都市である。メンデルスゾーンやブラームスの生地としてクラシック音楽ファンに親しまれているだけでなく、サッカーチーム本拠地、自転車レース開催地としても世界的に知られている。ハンブルク国際空港駅から“S-Bahn”と呼ばれる郊外鉄道の S1 線を利用し、20～30 分程度でハンブルク中央駅まで到達できる。

会議場兼宿泊場所のパークハイアット・ハンブルクは、同駅から徒歩 5 分以内と至便の位置にある。街路沿いに多くの飲食店が座席を並べ、またオクトーバーフェストの屋台もあり、大通りは観光客で賑わっていた。

中央駅の北側には、13 世紀初めにアルスター川を堰き止めて造られた大小 2 つの人造湖(外アルスター・内アルスター)がある。また、中央駅の南側にはエルベ川へ続く運河に面した港湾施設や煉瓦造りの倉庫街が広がっている。聖ニコライ教会跡や 19 世紀に建てられたハンブルク市庁舎など、歴史的な建築物が現代的な商業ビル群と共存しており、港町の風情に溢れる



写真—13 ハンブルク空港駅始発の S1 線 (写真提供：川上氏)



図—1 ハンブルク中央駅～パークハイアットホテル周辺案内図



写真一四 聖ニコライ教会跡 (写真提供：川上氏)



写真一五 メンケベルク通り～ハンブルク市庁舎 (写真提供：川上氏)

だけでなく、街並みが計画的に整備され、保守も行き届いている印象を受けた。

9月20日のISO/TC 195会議4日目終了後には、VDMAが主催する社交行事に招待された。エルベ川沿いの埠頭に係留された灯台船・レストラン“Das Feuerschiff”に乗り込み、機関室を改装したバーカウターのある宴会場で出席者同士の親交を深めた。



写真一六 灯台船・レストラン“Das Feuerschiff”外観



写真一七 TC 195 社交行事風景

2019年の神戸国際会議でも社交行事を主催する予定であり、ホスト国として今回の評価も踏まえた企画を立案したい。

他方、CEN/TC 151/WG 8/SWG 会議が開催されたフランクフルト・アム・マイン（通称フランクフルト市）は、ドイツ中南部ヘッセン州を東西に流れるマイン川沿いに位置し、前出のベルリン、ハンブルク及びミュンヘン、ケルンに次ぐドイツ第5位の大都市である。ドイツ経済、国際金融の中心として、また歴史・文化の面でも、欧州中央銀行（ECB）、マイン・タワー（高層ビル）、オペラ座、ゲーテ博物館など、観光資産は枚挙に暇がない。

フランクフルト国際空港駅から“S-Bahn”郊外鉄道のS8又はS9線を利用し、フランクフルト中央駅の2駅手前のフランクフルト・ニーダーラートで下車、路面電車に乗り換えて1駅隣のビューロシュタットから徒歩5分ほどでプラザ・フランクフルト・コングレスホテル、又は同ニーダーラート駅から徒歩10分ほどでNHフランクフルト・ニーダーラートホテルに到着する。いずれのホテルからもVDMAビル・別館



写真-18 フランクフルト市街中心部にある欧州中央銀行 (ECB)



写真-19 S-Bahn ニーダーラート駅の高架下を通過する路面電車 (写真提供：川上氏)

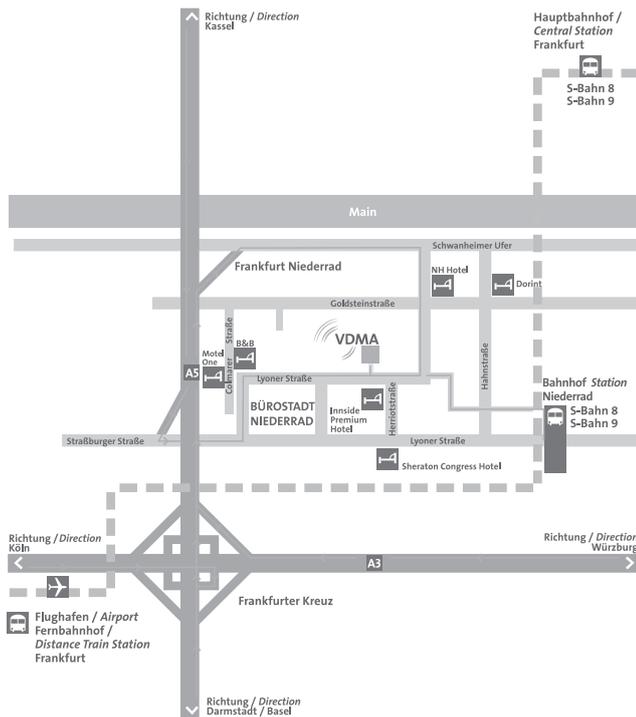


図-2 フランクフルト・ニーダーラート駅～VDMA 周辺ホテル案内図



写真-20 プラザ・フランクフルト・コンgresホテル外観 (クラウンプラザホテルへ改装中)



写真-21 NH フランクフルト・ニーダーラートホテル入口

FZHG は徒歩 5 分以内の距離にあるが、オフィス街にあり周辺に飲食店が少なく、些か不便である。

フランクフルト会議 (前半) の 9 月 11～15 日、ハンブルク国際会議の 9 月 16～21 日はドイツの国民的行事 (オクトーバーフェスト) 期間と重なった為、どのホテルも一泊当たりの価格が通常の 2～3 倍に高騰し、かつ予約も取り難い状況となっていた。一方、フランクフルト会議 (後半) の 9 月 22～27 日になると

需要が一段落し、通常料金に戻っていた。議長国・ホスト国の事情ではあるが、国際会議開催時期の決定・開催地の選定に当たっては、混雑の激しい観光地や繁忙期を避けるなど、多面的な配慮が必要である。

(協会標準部会事務局記)